

【介護から自分を知る⑮】

東海社会福祉科学研究所

大北 秀雄

(3) 個別対応—認知症

⑤ 認知症の確認・支援

認知症の人の行動は、いろいろな状況がありますし、その人の行動も何時も同じ内容のものであるとはいえません。

認知症の内容は、いろんなところから紹介がされていますから、パソコンホームページ、本、パンフレットなどを参考にして頂ければ理解の程度を上げることになると思います。認知症の原因、症状、医療行為、機能訓練、介護などの内容が記載されていますので、それを参考にして考えていくこともできると思います。また、ケアマネジャーや専門家などと話をする上でも、その内容が多少なりとも参考となると思います。

認知症の人の行動パターンは、多少なりとも同じようなことがされているのが現状ですから、そのパターンを理解・確認することから、日常の支援が実質的に始まります。観察の第一は、時間を中心にパターンを見ることです。第二は、行動内容を中心にパターンを見ることです。第三はパターン化されないものを時間、行動内容で見ることです。

睡眠、食事、行動の時間・内容と行動範囲を確認することと、安全性との関係を整理すれば良いと思います。その確認をすることで支援の必要なものは何かを全体的に把握することができます。

確認する時は、客観的に見ることであり、だれが介護をするのかを考えた主観的な発想を今はやらないことが大切です。事実関係に基づいた支援の方法をどうするのか検討することによって、話し合いの内容が濃くなり現実的な対応方法が見えてくるものですし、その中での役割分担が概ね決まるものです。

認知症の状態が一定以上に悪くなると、その支援の方法で何をすれば一番ベターなのかが解からなくなることが多いです。それまでの状態においても苦勞して支援していたと思いますし、いろんな疲れを大変感じていることだと思います。

今まで頑張れたのだからこれからは何とかなるといふ気持ちでの支援は、長く続かせることが大変になってきます。今までの支援を振り返り、これからのことを十分考えて、家族会議等において話し合いをすることが必要ですし、ケアマネジャーにおいても何かの意見を持っていると思いますので、その内容の確認をすることも必要です。

何事も客観的な目で見、問題点を把握（省略しないこと）し、専門家の意

見を聞き、家族会議等で本音で話し合うことが必要ですし、そこに本当の現実的支援があると思います。